

KSKO

イマージュ

2015年9月

1991年9月3日 第三種郵便承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行



劇団 態変
第63回公演



有象無象の

人間紋様

ぬえ紋様

古代から未来を

尖端たらん

貫く矢の

作・演出・芸術監督
音楽

金満里
山本公成 コズミックユニット

ぬえ

声が、聞こえる

ピー、ピー、と何かに訴え、引つ掻くように

忘れるな

魂の奥に、こだわる、凝りが、音となって

とどろく 呻き 嘆き に 耳を、ふさぐな、と

魂は、乾き、餓えを抱え、彷徨うものよ

疑心暗鬼に、身悶え、自らを、持て余すものよ

全ての、置いて行かれ

見捨てられた、父無し子、よ

我らが、母を食いちぎり、子を打ち抜き

我を引き裂け

虐げられ、追いやられた、この音、と

細部に宿る、総念、の理性の集合体を

忌まわしい、怨念 たぐり寄せる、執念 果たせずの、無念

無言の言霊、霊舞に、のせ、解きほぐさん と 征く

寄稿 釈徹宗（僧・宗教学者）

今回の公演では、「念」がテーマになっています。

「念」は、「思い」「や」「記憶」「や」「考え」「や」「感情」などといった心の働きを表す言葉です。仏教だと、この「念」をどう扱うかが大きな問題になります。「念」は喜びの源泉であり、苦悩の源泉でもあると言えるでしょう。また、「念」は、「一瞬」という時間を指す語でもあります。私たちは、一瞬一瞬、心を働かせながら生きていくわけです。次から次へと「念」は発生し続けるのです。

一瞬一瞬の心の働きは、私というものの根拠であり、私の人生を編み上げていきます。そして、「念」は蓄積されたり表出されたりしながら、私や私の周囲に影響を及ぼします。

「ぬえ」は、そんな「念」の集合体です。しかも、異種異類の集合体です。愛情と憎悪、慈悲と怨嗟、許しと怒り、異なる「念」が衝突し、葛藤して、折り合って成立した姿、それが「ぬえ」なのです。

今回は、「念が交錯する場を提示する」といった公演になるのではないかと、そんな想像をしています。

鶴（ぬえ）とは・・・

平安時代に現れた妖怪とされ、その姿は顔は猿に似ていて胴は狸、手足は虎、尻尾が蛇。そしてトラッグミの様な声で鳴っていたとされています。鳥のトラッグミの異称も鶴になります。

平安時代の人々は夜な夜な聞こえる鶴の声を不吉なものと感じ天皇や貴族達は、声が聞こえるや、大事が起きないよう祈ったといわれています。姿の見えない不気味な鳴き声と原因不明の怪事件が結び付き、妖怪鶴が生まれたと考えられます。

鶴は「平家物語」に登場し、「古事記」や「万葉集」にも名が見られます。文献によつては胴については何も書かれていなかったり、胴が虎で書かれている物もあり。他にも背が虎で足が狸、尾はキツネと言う物や顔は猫で胴はニワトリと書かれた物もあるようです。

転じて正体不明や得体の知れない存在を「鶴」と称することもあります。（編集部）

10月11日13時半の回 公演終了後、金満里と釈徹宗氏によるアフタートークを予定しています。
『ぬえ』公演チケットをお持ちの方は無料でご参加いただけます。



態変が平安時代をやる (ぬえをめぐる演出ノート)

金 平安時代は、今より障害者が蔓延していたんじゃないか。有象無象に障害者もいて生きやすかった。鶴は色んな生き物のパーツを接ぎ木しているので全くの想像の物ではないが、態変がやる「ぬえ」はそれとは違う架空の想像物の「ぬえ」をやればいい。

上月 平安ものの漫画や物語は多いけど、障害者はあんまり出てこない・・・

金 それは健常者が作ってるからやる。

平安時代ってあんまりなじみがないんじゃない？ 貴族か農民か日本の中の階級時代。

下村 都しか栄えていなくてその他は国じゃなかった、ような。都だけが突出して裕福な貴族と貧しい民衆に分れていた。

金 平安時代の絵は女の人が描かれている物が多い、建物も天井を取って上から見たような平面的な絵が多い。女の十二単を着ている姿勢は低い、床面に近い私に近い体勢だったんじゃないか。

下村 塀なんかも低かった。

金 地面に近いもつと這ったりしての生活で、砂や何かも家に入ってきたりして、2足歩行の今の生活より障害者がいても、平気だったのではないか。

金 鶴は女ではなく男の妖怪。崇徳院と言う天皇になれなかった人が死んで、その恨み怨念から出てきたのが鶴ではないかと言いう説もある。平安の男の恨み怨念の怖さ。だがそれよりも民衆の怨念、恨みの方が強いのではないか、と言いうのをやりたい。平安は女っぽい男の業、怨念、嫉妬うずまく人間模様を包括的に、人を解放していきたい。

金 鶴は女ではなく男の妖怪。崇徳院と言う天皇になれなかった人が死んで、その恨み怨念から出てきたのが鶴ではないかと言いう説もある。平安の男の恨み怨念の怖さ。だがそれよりも民衆の怨念、恨みの方が強いのではないか、と言いうのをやりたい。平安は女っぽい男の業、怨念、嫉妬うずまく人間模様を包括的に、人を解放していきたい。

金 鶴は女ではなく男の妖怪。崇徳院と言う天皇になれなかった人が死んで、その恨み怨念から出てきたのが鶴ではないかと言いう説もある。平安の男の恨み怨念の怖さ。だがそれよりも民衆の怨念、恨みの方が強いのではないか、と言いうのをやりたい。平安は女っぽい男の業、怨念、嫉妬うずまく人間模様を包括的に、人を解放していきたい。



金満里

平安は好きなので、色っぽくいきたいね



小泉ゆうすけ

善とか悪とか関係なく、混沌の中だからこそ現せる、突き抜けた表現にしたい



向井望



上月陽平

腐った世の中を一掃するような、目を剥くような逸らすようなそんな演技をしたい！！



下村雅哉

漠然とした時代に生と死を感じる表現に念を膨らませる



宮谷泰光 (インターン)

目の演技が難しいですが、がんばります！



市丸敏喜 (インターン)

3回目の参加です。3日間自分の力を出し切りたい。

態変の映像を見て出演を決めました。今は必死でやるだけ！

松尾大嗣 (インターン)

『ぬえ』製作日誌

7月19日(日) 稽古

演出から今回の『ぬえ』の参考文献、「鶴の鳴く夜を正しく恐れるために」野宿の人びととともに歩んだ20年」(稲葉剛著)を紹介された。新宿ダンボール村焼失の話や若者がホームレスの人を襲う事件の事などが書かれている。「襲う若者からしたらホームレスの存在が鶴だと言えるし、襲われる側のホームレスからしたら夜になると襲ってくる若者が鶴だと言える」などの意見が出た。この日は、「念」特に「怒りの念」をどのように出すか、言葉にして出せるのか、身体で表現するようになるのか、などを試す稽古となった。

7月26日(日) 稽古

この日は演出抜きで役者と黒子のみでさらに「念」についてのディスカッションを行った。

「怨念、残念、無念、諦念」などのネガティブなイメージの言葉が多く出たが、「念願、信念を貫く」などの希望的な言葉も出てきた。

8月4日(火) ちらし打ち合わせ

東學さんに金のイメージをイメージのままにお伝えする。「ところどころ、火で燃えているみたいな。平安神宮の朱の色。しかし恐くオドロオドロしくないイメージ」「態変の身体が妖怪というのは当たり前すぎておもしろくはない。ぬえはぬえとして、グラフィカルに…」

8月8日(木) 音楽打ち合わせ

金から山本公成さんに今回の作品イメージをぶつける。昨年『Over the Rainbow』虹の彼方に『ルンタ(風の馬)』くいい風よ吹けく』に続く本作では、お互いに求めることへの嗅覚が鋭くなっており、微妙なニュアンスまで作り込むことができそうである。「スリリングでビューアーな音に期待」

8月9日(日) 稽古

広島原爆投下70年目の8月6日に完成した台本を、長崎原爆忌のこの日受け取る。今回も、厳しい言葉のやり取りの中で自分の内面を掘り下げ、生死をかけてそれを身体でどう表現するかを探求する。自分自身が『ぬえ』と言う作品にとり喰われてしまわないように真剣に取り組まねばと気持ちを入れ直した日になった。

パフォーマー インタースタッフ登場

『ぬえ』の中で踊る
ダイナミックなバネとして

態変の作品づくりでは、「舞台に出たい!」という障碍者の熱い思いが、一番大事な芸術の種。劇団員として表現を日々磨くパフォーマーに加え、エキストラ出演者を作品に合わせて募集することで、毎回新鮮な思いに出会い、ダイナミックな力を得てきました。

今回の『ぬえ』では、群舞のシーンに出演するだけでなく、金満里の身体表現ワークショップを受講し、身体そのものの面白さを感じるところから学んでもらう「パフォーマーインタビュー」を募集する取り組みを始めました。じつじつと、種を育てることへ向き合いたいと思ったのです。8月8日が第一回目となったワークショップには、総勢6名が集まりました!

当日は、さまざまに固有の身体をもった参加者たちが仰向けで寝転がり、呼吸をするところから、体位を横向き、うつ伏せへと変えていきました。ひとつの声かけに対し、展開される表現は一人ひとり異なるもの。動きの質はもちろん、動きの大きさや向きもどんどん変わってゆき、彼ら自身が驚く様子も見受けられました。

ワークショップ後、個別の面談を経て3名が今回の公演にインタースタッフとして加わるようになりました。パフォーマー、スタッフにとっても新たな公演参加者は大きな喜びかつエネルギーとなりまます。態変の芸術をさらに盛り上げるべく、今後もインタースタッフワークショップは継続の予定です。(編集部)

出版物ご案内

情報誌イマージュ

1994年8月創刊。劇団態変の定期刊行物として、20年めを迎えます。

VOL.61 2015年 春号 **残部僅少**

特集 レイシズムにNO!
クロスオーバー談義●中村一成×金満里 「ヘイトの嵐を踏み越え そして、その先へ」

VOL.62 2015年 夏号

特集 パレスチナを想う
クロスオーバー談義●岡真理×金満里 「アートは生きることの証し」
[対談補遺]金満里の素朴な疑問に岡真理が答えるパレスチナ問題入門 など

VOL.63 2015年 秋号 **近日発売**

特集「大阪都」構想を阻止した！（仮）
クロスオーバー談義●内田樹×金満里 「ことばが身体に伝わる時 からだが言葉を発するとき」
SADL 奮闘記など、本誌ならではのディープな証言をリアルタイムにお届けします。



1冊 500円
年間購読（年3回発行）1500円
※送料込

〈購入方法〉

同封の郵便振替用紙に下記の事項を記入して、ご送金をお願いします。

口座番号	00920-8-320343
加入者名	イマージュ・劇団態変
振込人住所・氏名	送付ご希望の住所・氏名・電話番号・よろしければメールアドレス
通信欄	お申し込みされる物品名、数量

インターネットからもお申し込みいただけます。詳細は態変 HP へどうぞ！

劇団態変 賛助会員制度へのご支援をお願いします。

劇団態変は、活動基盤の確保のため、2012年4月に賛助会員制度を設けました。

行政からの補助金を受けず、劇団態変のパフォーマーが主体となり芸術創造活動を行っていく試みは、制度へご支援頂く皆様のおかげで、継続することが出来ております。2012年会員制度発足以降、劇団態変は年2～3回のペースで公演を行っており、今年度末には12年ぶりの東京公演を控えています。新たな挑戦を前に、私たちは、世界に類を見ない芸術創造を行い、社会に風穴を開け続けていることに誇りを持ちながら、活動を継続しております。

しかしながら、依然として劇団態変の運営の危機は続いており、共に活動をしてくれるスタッフが僅かながら増える反面、賛助会員となって下さる方が減っているのも現状です。今一度、皆様の力で劇団態変の活動を支えていただけないでしょうか。何卒、よろしくお願いいたします。

賛助会員制度

- 個人会員 : 年会費 一口5000円
- 法人会委員 : 年会費 一口20000円

〈特典〉

共通：
会員証発行
劇団態変 公演映像DVD進呈
(毎年1回 当該年の公演ダイジェスト映像)

個人会員：チケット料金500円割引（何度でもご利用可能）
法人会員：一作品1名ご招待
(団体でのご来場の場合、団体様向けの特典もございます)

〈ご入会方法〉

- ①郵便振替
同封の振替用紙に以下をご記入の上、お振込み下さい。
・お名前 ・ご住所 ・お電話番号（任意）
・メールアドレス（任意）
- ②PayPal
メールアドレスとクレジットカードをお持ちの方はHPよりご利用頂けます。
劇団態変HP→日本語TOP→「賛助会員制度」にお入り下さい。

〈期間〉

2015年度の会員の期間は、2016年3月末まで。次年度の更新手続きは、年度末にご案内致します。

態変2016東京プロジェクト通信

劇団態変、なんと12年ぶりの東京公演が決定しました！

来年3月、『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』の再演で、杉並区にある劇場、座・高円寺へと踊り込みます。出演する障害者エキストラと裏方スタッフ黒子を現地で募集し、共に舞台を創るプロジェクト。現在、このプロジェクトの応援団の中心となり、東京近郊にてエキストラ出演者募集を進めて下さっている、関根善一さん（元・態変パフォーマー）にインタビューを行ないました。

—関根さんと態変との出会いは？

『銀河反乱'91』東京公演のエキストラに応募する仲間の付き添いで行ったはずが、金さんに「あんたも車椅子から下りてみ」と凄まれ、圧倒されて車椅子から下りて動いていたら釣られてしまいました（笑）

—ご自身が舞台に出演した時のエピソード、やってみての印象などを教えてください。

語り出したら切りがないくらいありますが、エキストラを経て大阪のアイホールで行った『奇想天外』『ダキシメタイ』等に出演した経緯は良く覚えていませんが、たぶん、スポットライトにはまったんだと思います。それを切っ掛けにケニア・イギリス・スイス等海外公演にも同行し、益々はまったんだと思います。

東京—大阪を日帰りで稽古に出かけ、金さんから「やる気がないなら帰れ！」と叱られても通い続けたのは金さんはじめ、態変の仲間に吸い込まれたというか、帰りの新幹線の中で「俺はマゾか？」と自問自答したものです。そして、『死霊』にて一人で演じる時間を与えてもらったことは忘れられません。

—今回のプロジェクトに期待する事は！？

昔のあのワクワクドキドキ感が凄くあります。これから迎える側になったという事で、また違った緊張感というか責任感が重く、刺激的に感じています。当たり前ですが大盛況に終えるよう期待しています。

すでに4人のエキストラ出演希望の方が名乗りを上げて下さっているとのこと。金満里が「舞台を障害者の海にしたい」と宣言した、革命的公演が実現される日は、刻々と近づいている・・・

『ルンタ（風の馬）～いい風よ吹け～』東京公演

作・演出・芸術監督 金満里

音楽 山本公成コズミックトリオ

絵画 ウゲン・ナムゲン（チベット仏画師）

チケット

11月6日（金）

発売開始

2016年

3月11日（金） 19:00

3月12日（土） 13:00 / 19:00

3月13日（日） 13:00

会場 座・高円寺1

JR中央線「高円寺」駅 北口から徒歩5分

東京都杉並区高円寺北2-1-2

障がい者エキストラ オーディション開催決定！

日時 2015年11月15日（日） 13:30～16:30

会場 座・高円寺 けいこ場 2・3（JR中央線「高円寺」駅 徒歩5分）

こんな方を募集しています

- ・身体障害（がい）のある方で、上記の『ルンタ』東京公演に一回以上参加可能
- ・レオタード着用で舞台上げられる
- ・床面で「這う」「転がる」「存在する」を見せられる

お問合せ／お申込み

東京公演・エキストラ募集専用窓口（担当：関根）
mail yoshikazu_sekine@ybb.ne.jp

東京プロジェクトの詳細は態変HP内、
特設ページでも随時更新中です！



劇団態変 第63回公演

ぬえ 作・演出・芸術監督 金満里

出演 金満里 小泉ゆうすけ 上月陽平 下村雅哉 向井望 市丸敏喜 松尾大嗣 宮谷泰光

音楽 山本公成コズミックユニット 山本公成 (Sax,Flute) 中島直樹 (Bass)

[日時]

2015年10月

10日(土) 19:00

11日(日) 13:30 ★ 19:00

12日(月祝) 13:30

※受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

★公演終了後はアフタートークを開催(11日13:30の部)
金満里×釈徹宗氏

[チケット]

日時指定・自由席(当日受付順)

前売 一般 ¥3,500

学生 ¥2,500

シルバー ¥3,000

障害者・介護者ペア ¥6,000

当日 ¥4,000

リピーター割引 ¥2,500

※学生は大学・専門学校生以下、シルバーは65歳以上。受付にて証明書を提示

※賛助会員証提示で各500円引き(リピーター割引と併用不可)

※車イス席スペースは席数限定。お早めに必ずご予約ください。

緊急決定! <物販予告>

ぬえTシャツ

今回の宣伝美術を手がける墨絵師・東學氏による、「ぬえ」オリジナルTシャツを販売します!

10月10日~12日、開演前・終演後のHEP HALLロビー(物販ブース)で限定販売。

公演に足をお運び頂き、ぜひ、手にしてください!

[ご予約 / お問い合わせ]

態変 office イマージュ

TEL / FAX 06-6320-0344

E-mail taihen.japan@gmail.com

HP <http://www.ne.jp/asahi/imaju/taihen/>

[会場] HEP HALL

大阪市北区角田町 5-15 HEP FIVE 8F

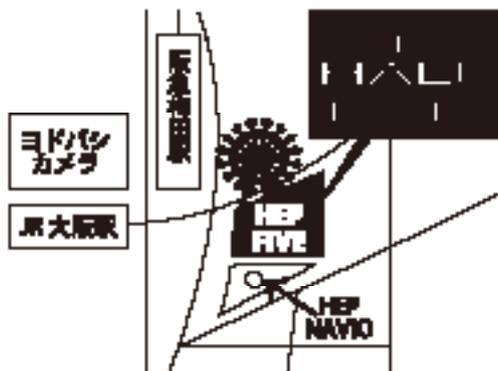
06-6366-3636 (11:00 ~ 18:00)

赤い観覧車のある「ヘップファイブ」のビル、正面入り口のエレベーターで8階へ!

★阪急梅田駅から徒歩約3分

★JR大阪駅御堂筋口から徒歩約4分

「梅田のど真ん中」という便利な立地。ギャラリーや個性的な店の立ち並び、中崎町なんかは徒歩圏内です。遠方にお住まいの方も、3連休を利用して、アートスポット開拓の大阪ツアーに出てみませんか! (編集部より)



1
9
9
1
年
9
月
3
日
第
三
種
郵
便
承
認

毎
月
(
1
・
2
・
3
・
4
・
5
・
6
・
7
・
8
の
日
)
発
行